日本ヨット協会報

YACHT BULLETIN

NO. 1
JUL. 1958

発行 日本ヨット協会
千代田区神田駿河台4-6

発行にあたつて

近頃スポーツ普及の波に乗ったわけでないが，ヨット普及もいちじるしいものがある。此のような発展期には同好者相互門の考え方が疎通していないと混乱がおこることが多い。

或は東京でオリンピック大会が開かれるかも知れない重要な時期，或は国体のあり方が変るかも知れない時期には一層お互の考え方を知り合う必要がある。日本ヨット協会は最近こういう努力を欠いていたようである。

その上，協会の事務を委員会制度によって行うことになったので各委員会の考え方，仕事の進め方などもお互いに知っていた方がいいので，この助けにも機関誌を持つ必要が痛感されるようになった。

久しい以前には「舵」を機関誌としたこともあったが，「舵」の紙面等の都合で機関誌とすることが出来ないので，新に此の会報を出して見ることとした。われわれが独自の機関誌を持ち度いと思ったのは，今度が初めてではない。その度びに何年も世話になった「舵」と競合することになりはしないかと心配した。今度も事前に「舵」の土肥君と相談した所，今われわれが考えているようなものなら競合はしないし，協会としては当然の発行であろうということで，土肥君が編輯を進んで引き受けて呉れたので，会報発行のはこびになったのである。

協会史の資料を集めているが，レースの記録が中々集まらない。レース批評は「舵」にゆずるとしても記録だけはぜひ会報にのせたいと考えている。子供が産れるとき，その子供に対する希望は無限である。此の新しい会報もその希望を少しづつでも満して，役に立つものに育てたいと思うものである。（小沢）

委員会報告

国際委員会　第1回

日　時　昭和33年5月6日　午後6時～8時

場　所　丸善地階　レストラント「ピーコック」

出席者　岩田委員長，山本，平田，山口，塩路各委員

議　事　新しく発足した国際委員会の今後の運営方法を討議，国際委員会の仕事の内容に関し

1. I.Y.R.U との交渉
2. 国際競技ルールの研究，及国際級ヨットに関する情報の収集
3. 国際レースの計画及実施
4. オリンピック対策
5. 外貨取得に関する件，及其他国際問題に関係ある協会事務の窓口の業務

を確認し各委員の分担を決定した。

尚本年度実施する国際レースは，マニラ，香港7名遠征の外貨が許可されているので，なるべく速かに先づマニラヨットクラブと期日に関して交渉を開始することにした。

第2回

日　時　昭和33年5月15日　午後8時～9時

場　所　希国ホテル「グリルバー」

出席者　小沢理事長，岩田委員長，山本，山口，塩谷各委員

議　事　I.O.C. 東京総会のヨットとして来日中のイタリヤヨット協会長（ローマ・オリンピック・ヨット競技組織委員長）ベッペ・クロッセ氏を囲み懇談会を開催。

ローマオリンピックのヨット競技場であるナポリの様子を聴取，7月下旬は特に風が弱いので日本チームには適しているかも知れないとの事，今後必要な情報は送って呉れる由，特にナポリ附近の海図を至急送ってもらうことを約す。

技術委員会　第1回

日　時　昭和33年5月14日　18時～20時30分

場　所　体協第二会議室

出席者　小沢理事長，山本委員長，高原，渡辺，横山内田，戸田，山路，梅田各委員　欠席者　今井委員

議　事

1. 技術委員依嘱の件

各委員了承，決定（関東計測員米田氏の後任者が決定次第依嘱する）

2. 本年度事業予定の件

2·1 造艇登録規則の改訂

○フィン級とスター級を加える。

○スナイプ，A級デインギーの改訂，

（フライングダッチマン，英国キャデットの規則および図面は約1カ月後に入手可能，ドラゴン級は最新版あり）

2·2 図面の改訂と発行

○スナイプは新図あり

○A級は改訂の必要あり

○スターの図面は英文のままのものに日本訳を加筆

○フィンは4枚で不揃いであるから新作する。日本訳の新図にする

○ドラゴンの図面は写図する

○F.D. および Cadet は写図する

2·3 業務の分担

下の如く分担を定め，即時実行に移すことに決定

a．造艇登録規則の整備

○A級ディンギー（改訂）　山本
○スナイプ（注釈加筆）　内田
○フィン（日本語版作成）　渡辺
○スター（　〃　〃　）　山路
○フライイングダッチマン（〃　〃）　横山
○英国キャデット（〃　〃）　戸田

上記は F.D. および Cadet を除き 33-6-15 までに原稿作成する。F.D. および Cadet は原本到着次第着手する。

b．図面の整備

○A級ディンギー（改訂版再製）　山本
○フィン　（〃　〃）　渡辺
○スター（日本訳加筆）　山本
○ドラゴン（写図および日本訳加筆）　山本
○フライイングダッチマン（〃　〃）　横山
○英国キャデット（　〃　〃　）　戸田
○ンナイプ（改訂）　内田

図面の大きさは JIS A1 を標準とし統一する。上記は 33-6-30 までに原図完の予定。

3. A級ディンギーに代わる艇の計画

学連代表和田理事より次の意見が提出された。

（学連の統一された希望ではないが一部の有力な意見としての発言）

A級ディンギーに代わる艇として，次の条件を満足するような艇の出現を切に期待する。

1. A級ディンギーと同程度の建造費であること
2. レースには2人乗であること。
3. 自作も可能であること。
4. 耐波性（安全性）の十分あること。
5. プレーニングスタイルの艇に近付けたい。

（希望の優先順）

以上の発言に対し，技術委員会として全面的にこれをとり上げることに決定。設計を進めるに当って次の方法を考慮することになった。

1. 現在関東水域にあるA級ディンギーと程度の艇を一場に集めて，試乗を行い，参考とする。
2. 試作艇を数種建造することが好ましいが，試作する前に図面の中に委員会として十分検討したい。
3. 艇体構造は相当多様性のあるもの（例えば，合板でも単材でもよいような構造）が好ましい
4. 艇のスタイルはできるだけ魅力のあるものとしたい。例えば貸ヨット屋でも大いに利用されることが好ましい。
5. 細目については次回まで各委員において研究する。

普及委員会　第1回

期　日　昭和33年6月10日
場　所　岸記念体育館
出席者　小沢理事長，堀江委員長，土肥，山名各委員
議　事

(イ) 日本ヨット協会報の発刊について

① 名称　日本ヨット協会報　YACHT BULLETIN とする
② 大さ　185mm×257mm　舵の大さ
③ 頁数　8頁
④ 発各部数　1,000部
⑤ 発行回数　毎月1回　年2回　臨時を考える
⑥ 費用　広告収入による
⑦ 配布先　各地方協会・都道府県体育課・地方体協・運輸省・海上保安庁・文部省・体協その他
⑧ 内容

第1頁　写真
第2頁　巻頭言　¼頁　200字×2枚
〃　委員会報告　} 200字×16枚
第3頁　〃
第4頁　Topic 写真　200字×7枚
第5頁　地方便り　200字×7〃
第6頁　レース記録
第7頁　協会便り又は判例集
第8頁　広告

取りあえず上記の案により発刊することとし第1号を7月上旬発行とし，原稿の締切りを6月22日とする。編輯を土肥氏に依頼する。表紙は大体原案により専門家に依頼する。

(ロ) 次の会合を6月25日頃とする

注　イについては明日（11日）行れる東京オリンピック委員会の際出席各理事に報告し次の理事会にはかることとした。

第2回

日　時　6月24日
場　所　体協
出席者　小沢理事長，堀江，土肥，山路，山名
議　事

1. 日本ヨット協会会報第1号編集打合せ

(イ) 地方ヨット協会に対して，原稿及び資料の依頼方法は理事会にはかってきめる。
(ロ) 会報の発行日は毎月1日，地方だよりの締切は前月15日，編集会議は20日頃とする。
(ハ) 分担—委員会報告—堀江，地方だより—林，写真及び競技記録—山路，山名，トピック—山田，判例—小沢，尚全本レースの判例は努めて掲載する。

（6頁え続く）

第13回国民体育大会夏季大会，ヨット競技要項

総　則　第13回国民体育大会実施要項と同文

1.　期　　日　昭和33年9月14日より17日まで（4日間）

2.　会　　場　滋賀県大津市　琵琶湖畔

.　実施要領

種	別	1艇当り乗員	各都道府県について 艇数	選手	監督
一般男子都道府県対抗	スナイプ級	2	1	4	1名
	12呎デインギー級	1	1		
一般女子都道府県対抗	12呎デインギー級	2	1	3	
高等学校都道府県対抗	スナイプ級	2	1	5	
	12呎デインギー級	2	1		
実業団都道府県対抗	スナイプ級	2	1	3	

①　参加資格

国民体育大会実施要項総則に示された選手資格の外，次の事項を加える。

(1)　各選手は日本ヨット協会のアマチュア登録証を持たなければならない。

(2)　実業団選手について

○同一都道府県内にある同一事業場又は同一企業体に，勤務している同好者の団体であって，その事業場又は，企業体から公認されているもの。

○市役所，県庁，裁判所，官庁出張事務所等も右と同一扱いとする。

○夜間学生は昼間勤務している事業所の実業団選手として出場することが出来る。

○本年5月1日以後，引きつづき同一箇所に勤務していること。

(3)　一般府県対抗について

○本年5月1日以後に引つづきその都道府県内で食糧の配給を受けていること。

○第12回国民体育大会夏季大会以後行われた，全日本ヨット個人選技権大会，全日本ヨット学生選手権大会，全日本ヨット実業団選手権大会及び全日本クラブヨット選手権大会に選手としてエントリーされた者は一般男子都道府県対抗の選手となることは出来ない。

(4)　高等学校都道府県対抗について

○チームはその都道府県にある同一高等学校の学生をもって組織されること。

○夜間高等学校生の参加を認める。この場合，同一人の実業団への参加はできない。

(5)　全般にわたり

○その都道府県から代表選手としての認定を受けること。

○同一人が一種目以上に参加することは出来ない。

②　申込と選手登録及び競技者

(1)　各競技の競技時の乗員数は前表の通りとする。

(2)　各項目の選手は毎回任意に交代し或は乗艇の級を選ぶことが出来る。

③　申込方法

各種別共申込書（申込用紙別送）三通を作成し，所属都道府県体育協会を経て，昭和33年8月27日まで必着するよう左記宛書留便を以て送附すること。

(1)　東京都千代田区神田駿河台4ノ6　岸記念体育館内　日本ヨット協会宛　1通。

(2)　大津市東浦一番町　滋賀県教育委員会事務局内　第13回国民体育大会滋賀県委員会事務局宛　2通

④　競技規定　昭和30年度改訂日本ヨット協会競技規則による。

⑤　総合順位決定方法

天皇杯順位は一般男子，一般女子，実業団，高校男子の各種別共スナイプ級，デインギー級毎に決勝に参加した艇数を1位の得点，以下順次1点を減じ最終位を1点としこの合計点で順位を決める。

皇后杯は一般女子種別について天皇杯順位の場合と同様の計算とする。

注　各参加府県はデインギー，スナイプ共自用のセールを各2枚づつ持参されたし。

全日本学生ヨット選手権大会要項

1. 期　日　昭和33年7月26日(土)～29日(火) 4日間
(悪天候の場合30日(水)に繰越すことがある)
2. 場　所　塩釜港外（宮城県七ヶ浜村花淵港吉田港東方海面）
3. 主　催　日本ヨット協会
主　管　東北ヨット協会，東北学生ヨット連盟，宮城県ヨット連盟
後　援　宮城県，塩釜市，七ヶ浜村，読売新聞社
4. 競技方法
(1) 日本ヨット協会競技規則による
(2) 12㌳デインギー2人乗及びスナイプ級2人乗各3艇宛
(3) 予　選　抽せんにより3組に組分けして各組3回戦
(4) 決　勝　各組上位2校　3回戦
5. 日　程
主将会議　7月26日(土)　午前10時
開 会 式　7月26日(土)　午後4時
予　　選　7月27日(日)，7月28日(月)　両日
スタート　午前9時
決　　勝　7月29日(火)　スタート　午前9時
閉 会 式　7月29日(火)　午後5時(頃)　於競技場
(26日午後1時より学連代議員会を開催の予定)
6. 参加資格
前年度優勝校　関東4校　近畿2校　関西2校　北海道，東北，中部，中国，四国，九州各1校　地元水域1校　計16校
1) 選手数　各校25名以内　アマチュア資格認定書を有するもの
2) 選手はデインギー，スナイプを区別しない。但し同一選手が同一回戦のA，S両級に出場することを禁止する。
7. 参加料　4,000円（参加申込と同時に送付のこと）
8. 得　点
〔得点〕=〔参加艇数〕−〔順位〕+1点
規則違反でなく不可抗力による棄権　0点
規則違反後直に棄権した艇　−1点
失　格　−2点
9. 参加申込
1) 別紙用紙に記入のこと
2) 申込期日　昭和33年7月1日　必着のこと
競技規則　第5条第2項による電報の場合にも同時に正式申込書を速達便にて送付のこと。
3) 申込期日後の選手変更を認めない。
4) 申込先　仙台市桜小路　東北大学工学部機械工学科　島田常八気付　東北ヨット協会
10. 注意事項
1) 競技規則の追加事項並びに特別な取決めは主将会議の席上で交付する帆走指示書に示す。
2) 各校はデインギ，スナイプ各1組のセイル（各協会の計則書添付）を持参すること。
3) 配艇はセイルを含めて主将会議の抽せんによる乗廻しとする。但し3回戦のうち1回は自校セイルが配当される。
4) シート，ブロック類は一応当方で準備はするがなるべく持参のこと。
5) 抗議旗持参のこと。
11. 宿　舎
1) 塩釜市内旅館を用意する　1泊　約550円(米不要，昼食弁当とも)
2) 参加申込と同時に宿泊希望の有無，到着予定日時をお知らせ下さい。
3) 宿泊旅館名及び会場交通案内は改めて御連絡致します。

全日本ヨット選手権大会開催要項

1. 主　　催　日本ヨット協会
2. 主　　管　中国ヨット協会
3. 期　　日　昭和33年10月11日(土)～12日(日)
4. 場　　所　三菱造船広島造船所　江波沖
5. 参加チーム　各水域よりS級A級各1チーム
前年優勝各1チーム　計20チーム
6. 競技方法　1日3回戦計6回戦の内上位5回ログシステムによる合計点をとる。
S級2人乗　A級1人乗
7. 使用艇　日本ヨット協会登録艇
8. 参加料　S級 2,000円（1チーム当り）
但し前年度優勝者免除
A級 1,500円（1チーム当り）
〃
9. 宿　　舎　広島市内旅館
10. 帆走委員会　日本ヨット協会より1～2名，他は中国水域より10～11名にて構成
11. 申込締切　9月10日

第9回全日本クラブヨット選手権大会要項

主　　催　日本ヨット協会
主　　管　兵庫県ヨット連盟
後　　援　関西ヨット協会,兵庫県,西宮市,毎日新聞
期　　日　昭和33年　8月24日（日）
会　　場　西宮港
種　　目　各クラブ　スナイプ級（2人乗）
　　12呎デインギー級（2人乗）　各1艇
日　　程　8月23日(土)　18.00 主将会議及び懇談会
　8月24日(日)　09.15 開会式
　　10.15 スナイプ級　　第1回戦
　　10.30 12呎デインギー級　〃
　　16.30 閉会式
競技方法　○日本ヨット協会競技規則による
　　○地元で準備された艇により各3回戦の不完全乗り廻しとする
　　○メンシート，ジブシート及びその附属ブロック，シャックルは各自持参品を使用する
　　○得点は1位を参加艇数と同数の点とし，以下各1点を減じ綜合得点を以て決定する
参加資格　○各協会の推薦するクラブ
　　○選手はアマ登録済の昭和15年12月31日以前の出生者に限る
　　○1チーム7名以内とする
　　○1チーム¥3,000
参加申込　別紙用紙を以て各水域一括して7月末迄に下記宛申込んで下さい
　　神戸市生田区浪花町22番地
　　日本汽船株式会社内　　岡　　稔
　　申込には参加料を添えて下さい
宿　　泊　旅館斡旋の望の向は申込用紙所定欄に御記入下さい 宿泊料は2食付1泊¥900の予定
褒　　賞　知事賞・優勝杯　市長賞・準優勝杯　関西ヨット協会長賞・3位楯　他参加賞(予定)
其 の 他　○本年度アマ登録証を御持参下さい
　　○貸与中の艇の損傷は使用チームの負担とする

主将会議及び懇談会には参加各チーム全員御出席願い懐しき顔触れ集い準備不充分とは申しながら大いにインタークラブらしいミーライングと致し度く存じます故宜しく御参加の程御願い致します。　以上

委　員　会　報　告　（3頁より）

東京オリンピック委員会　第1回

期　日　昭和33年6月11日
場　所　岸記念体育館
出席者　小沢理事長，山本，岩田，竹下，和田各理事
　　川越，千野，大村，山田，川瀬，斉藤各委員
議　事
　① 委員会の使命の説明　小沢理事長
　② 招致準備委員会の従来の動きの説明　山本理事
　③ ②の説明により日本ヨット協会として8月15日頃までに体協に実施案を出さなければならないから，それについて協議することとし次の案を得た
　イ．競技は主競技海面を横浜附近とし，一部を相模湾に考える
　ロ．横浜に三渓園下にメーン・ハーバーを置き従来のヨット・ハーバーはサブ・ハーバーとする
　ハ．メーン・ハーバー設計基本資料は山田委員にそろえて貰う
　ニ．横浜市，神奈川県には，小沢理事長，山本理事が当り，千野委員がその日時を交渉する
　ホ．相南方面は岩田理事と大村委員とが接衝する

競技委員会　第1回

期　日　昭和33年6月25日　午後6時30分
場　所　岸記念体育館
出席者　小沢理事長，奥村，川越，堀江，林各委員，岩田理事
議　事　競技会の得点に関する件

近頃競技会の得点法が競技会毎に異っている。これは失格を0とし，棄権に何点かを与える思想から出ているが，これは本来からいえば無い方がいいので，此の委員会で検討して，次の代議員にはかって是正統一し度い，同時に I.Y.R.U. のティーム・レーシングルールを研究し1着艇に½点を与えることも研究することとした。

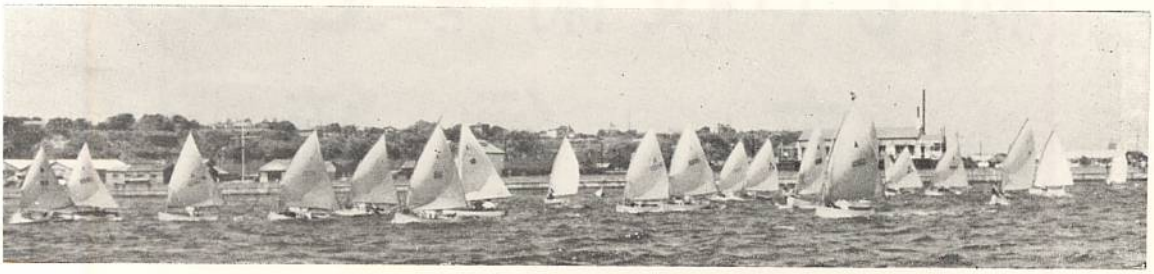
猶本年度のインターカレッヂ及びクラブレースの採点法は本会報にのせてある通りとする。

注意　千葉大学ヨッと部が合宿のため6月28日午後10時千葉港を出航，勝山方面に向ったが間もなく強風のため引き返えす途中2艇転覆1艇の乗員と他の艇の1人は救助さたたが，不幸1名は死亡した。

同日は二・三日前からの強風が残って居り，29日には千葉，神奈川，東京に強風注意報が出ると云う天候であった。気象にもう少しの注意が欲しかった。

又死亡した方の艇は千葉港防波堤にたたかれたもので，アンカー等で，それを防げなかったものかとくやまれてならない。

今月以後学生の廻航が多くなるので，ヨット関係者一同の一層の注意をのぞむものである。遭難の詳細については後報する心算りである。一つの事故を事故で終らせないで教訓として生かすことを切望する。



レース記録

関東インターカレッヂ第1部戦は6月7，8日の両日行われた。両日共午前中風が非常に弱く，各校とも実力を示すに至らなかったようである。午前は2～3米/秒の風があつた。帆走委員長は大村泰敏氏であった。

記録は下記の通りであって，優勝の中央大以下東大，日大，明大が全日本インカレえ出場する権利を持ち，横浜国大，同市大は残念にも再び二部にもどることとなった。

	A級					S級					総計	順位
	1回	2回	3回	4回	合計	1回	2回	3回	4回	合計		
日大	16 17 22	27 16 23	25 20 16	18 16 17	233	13 17 11	21 23 22	20 30¼ 25	18 20 0	220¼	453¼	③
慶大	15 18 11	28 21 19	29 18 23	21 27 10	248	10 0 18	10 6 14	21 18 19	20 23 12	171¼	419	⑥
東大	10 14 26	12 15 5	0 27 30¼	24 13 7	163¼	23 15 24	24 28 27	24 22 28	80¼ 29 0	274¼	467½	②
中大	21 25 24	25 22 4	26 17 28	21 25 30¼	268¼	25 19 14	25 26 30¼	3 23 15	17 16 26	239¼	507½	①
早大	4 6 12	17 30¼ 29	22 0 12	22 14 6	174¼	8 30¼ 21	13 12 17	17 12 8	9 25 22	194¼	368½	⑦
立大	8 19 13	9 26 20	24 0 0	12 11 20	162	12 27 28	19 29 20	29 27 16	24 28 11	270	432	⑤
明大	29 30¼ 28	18 11 13	21 19 0	28 23 19	239¼	16 22 29	8 18 15	26 11 13	0 27 13	198	437¼	④
横国大	9 27 23	10 24 8	11 13 15	26 15 5	186	0 26 7	5 11 7	14 9 5	15 19 10	128	314	⑧
横市大	5 7 14	6 7 14	10 9 14	9 4 8	113	9 0 20	4 9 16	10 6 7	14 8 3	106	219	⑨

後記 会報を出すことは，永いこと考えていたがいざとなると，素人のかなしさ，原稿が多かったり少なかったり，テンヤワンヤである。やっと後記を書く段になったが，印刷に関しては，中央OBの金子公一君が家業の一節としてサービスして呉れた。紙は中井商店の寄附による予定である。裏の広告は関係諸方面に頼む心算りである。地方だよりレース記録など協会宛に送っていただきたい。（吉）

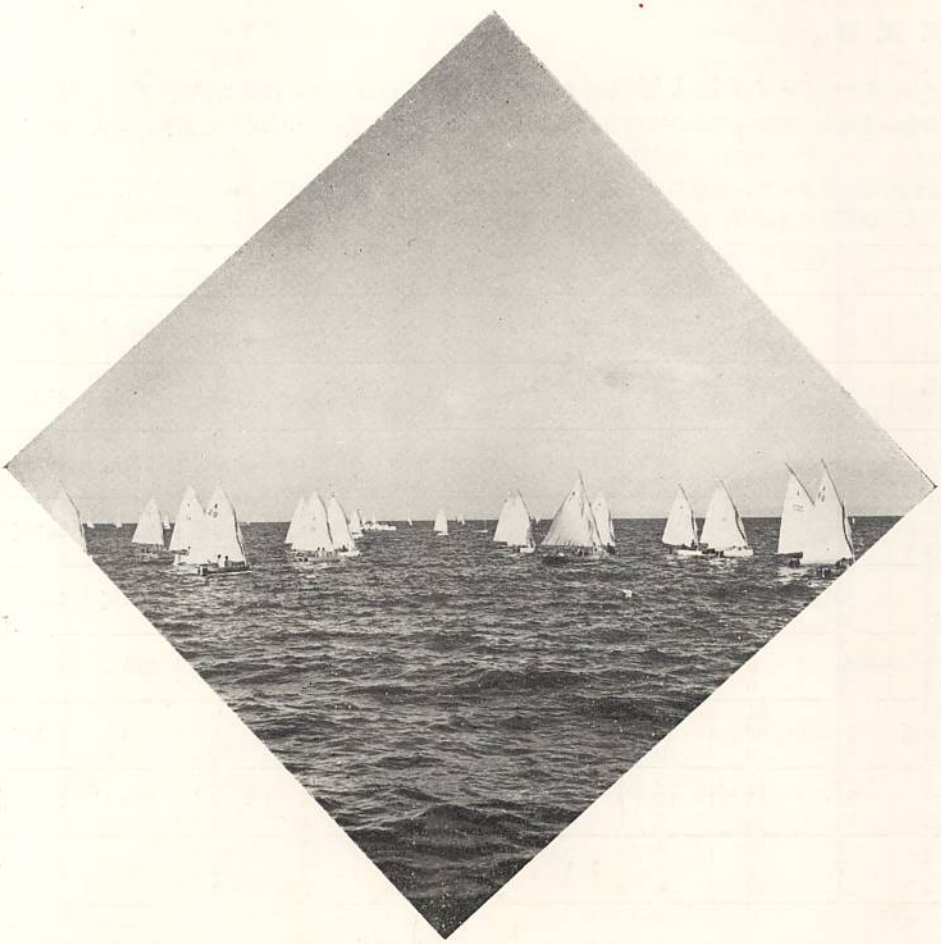
"舵" 200号記念増大号・発売中
定価 220円・送料 24円

・オリンピックを飛び石にした日本のヨット
（日本ヨット協会小史・ベルリン大会の巻）
・国内5米クラスの生い立ち
・日本のヨットセンター回顧（琵琶湖と横浜）
・日本のクルーザーとオーシャンレース
・スナイパー，スナイプを語る（座談会）
その他ヨットレーシング・テキスト，小型ヨットの整備とぎ装，帆の流体力学，等関係記事満載

ヨット関係図書発行・目録進呈

発行所 舟艇協会出版部
東京都中央区銀座3の2・振替東京25521番

新しい技術を生かす
古い伝統



協会
と共に育った

岡本造船所

横浜市中区新山下町3-7　電本局(2) 2214

日本ヨット協会報第一号
昭和卅三年七月七日発行　毎月七日発行

編集者兼発行人・東京都新宿区柏木三ノ三九七
印刷所　東京都台東区坂本町二ノ二六
小沢吉太郎
光芸社美術写真製版印刷所
（非売品）

関東インターカレッヂ第2部戦

関東インターカレッジ第2部戦は5月24日25日に行う予定であった。所が24日には南の強風が突然強くなり，参加艇の殆んど大部が転覆しレース不能となったので第2日を一週間繰り下げてレースを完了した。第1日に死者を出さなかったのはただ幸運というより外はないと，当日の副帆走委員長和田欣之介君は語っていた。このレースの結果横浜国大横浜市大は1部に出場し得ることとなった。

	A級			S級			A級合計	S級合計	総　計	順位
	3回	4回	5回	3回	4回	5回				
法	0	26	36	0	28½	21				
政	37	33	39¼	34½	39¼	37½	369½	160¾	430¼	③
大	38	39¼	31							
横	31	31	37	31½	31½	28½				
市	31	18	14	36	37½	39¼	232.0	204¼	436¼	②
大	33	27	20							
横	26	37	38	37½	30	34½				
国	28	35	34	39¼	36	36	219¼	213¼	504½	①
大	39¼	38	16							
関	29	34	31	33	33	30				
学	27	32	33	27	24	31½	223.0	178½	401½	④
大	0	24	13							
東	0	23	26							
水	16	0	10				117.0		117	⑩
大	17	13	12							
千	0	12	25	21	27	27				
葉	32	30	30	28½	34½	33	174.0	171.0	345.0	⑥
大	20	25	0							
成	22	21	32	22½	19½	24				
蹊	36	36	29	24	3	16½	238.0	109½	347½	⑤
大	24	15	23							
商	0	19	35	0	18	25½				
船	35	28	28	25½	22½	15	192.0	106½	298½	⑧
大	0	29	18							
学	0	12	22	30	25½	22½				
習	34	20	24	0	21	21	188.0	118½	306½	⑦
院	30	22	19							
埼	23	14	27	19½	16½	13½				
玉	25	16	11	3	15	18	144.0	85½	225½	⑨
大	0	9	15							
都	19	11	9							
立	0	10	8				100.0		100.0	⑪
大	18	8	17							

此の日転覆した殆んどすべての艇はアンカーを持たず，そのため風で流され十隻以上が大破し，内二艇は行方不明となった。此のため，第1部戦では全艇アンカーを持つことが申し合はされた。

委　員　会　名　簿

氏名　住所　電話連絡先

総務

○亀井　徳三　港区芝愛宕町1-30　59-6558 内外織物

堀江　喜三　平塚市新宿698　33-8226 教科書販売

小林　繁夫　世田ケ谷区玉川奥沢3-184
27-0361 第一物産鉄鋼部

斎藤　明　江東区高橋1ノ1
江東税務事務所法人事業税係

財務

○清水　英夫　文京区白山御殿町109
56-9376 勧銀京橋支店

小林　繁夫　前出　前出

競技

○竹下　政彦　港区芝東町35　28-1181 新三菱機械部

奥村　純雄　渋谷区桜ケ丘81 68-8111～9 三菱鋼材

川越　敵　杉並区大宮前2-593
28-4821 旬硝子販売部

増田　義一　杉並区久我山3-171
56-8431 直56-2011 千代田火災海上保険ＫＫ

堀江　喜三　前出

福吉　信男

坂井　春邦

技術

○山本　房生　大田区馬込西1-1526
20-7111 小松製作技術開発

渡辺　修治　葉山町堀内588 横須賀732,219 東造船

内田　四郎　横浜市神奈川区子安
横浜(5)4762 横浜ヨット

戸田　孝昭　渋谷区鶯谷35　42-1961 防衛庁技術部

横山　晃　横浜市中区新山下町貯木場
2-2214 岡本造船

梅田　治彦　横浜市神奈川区 川崎2-5541 小松工場

米田　秀久　目黒区原町1-355

山路　恒夫　逗子市新宿2229(逗子586)
横浜2-1200 本局機械課

今井　国三　墨田区寺島町3-10 黒田川造船気付
611-7195

その他地方協会技術委員

普及

○堀江　喜三　前出

竹下　政彦　前出

和田欣之介　目黒区上目黒3-1849　27-4848 春陽堂

林　至　前出

山田　水城　豊島区目白町1-1146
92-3161,2121内線3276 松下研究室

山路　恒夫　前出

山名　和子　横沢市中区竹ノ丸35
49-3171 藤倉ゴム工業

土肥　勝由　東京都世田ケ谷区新町2-287
56-5400 舟艇協会

多門　信　茅ケ崎市東海岸2の9
43-5641 モーターマガジン

国際

○岩田　幸彰　神奈川県葉山町一色2322
27-3061～8 コーンス商会

山本　房生　前出

平田　克己　千代田区神田駿河台2-5
27-0361 第一物産業務部

山口　良一　56-8681 巴工業

塩路　一郎　23-4371

組織委員会

○清水　英夫　前出

平田　克己　前出

和田欣之介　前出

上田健治郎　滋賀大津市中保町　守山-25 江州煉瓦

前田　輝雄　名古屋市中区榎町2

秋田　博正　兵庫県芦屋市平田町38
3-5641 日本汽船

東京オリンピック委員会

○小沢吉太郎　新宿区柏木3-397　37-8692 久松氏呼

大村　泰政　目黒区宮ケ丘1898
9.30分～11.30分 23-4775,6100
11.45 ～13.00　58-0772 尚友クラブ

山本　房生　前出

竹下　政彦　前出

岩田　幸彰　前出

川越　敵　前出

千野　純次　横浜市中区宮川町3-85　3-5424 自

奥村　純雄　前出

吉川　憲治　横沢市金沢区富岡町1841
7-9911 金沢区役所戸籍統計課長

斉藤　明　千葉県市川市若宮町2-406
63-6101 江東税務署　法人事業税係

山田　水城　前出

川瀬　五郎　港区芝君塚町18 27-7701～3 東邦物産

日本ヨット協会報

YACHT BULLETIN

No. 2 ,58
AUG

発行 日本ヨット協会
千代田区神田駿河台4-6

祝　　辞

本日ここに全日本学生をヨット選手権大会の閉会に当り御挨拶を述べる機会を与えられましたことは私の最も喜びとし感謝に堪えません。

皆さんは学生として最高学府に学ばれ将来日本の各階層の指導者となられまた日本の運命を荷う重責のある方々が海に趣味を持たれ海上を場とするヨットレースを行れました事は前途に皆様の輝しい活舞台が暗示しているような気がしてなりません。

皆様と私が始めて接したのは塩釜公民館に於ける開会式からここ数日間のことであるが皆さんの純真にして明朗濶達な雰囲気には何かしら引きつけられる強い力を感ぜられました。

海を愛し海に親しむこの心にこそ社会を浄化し世界を平和にする偉大な力が秘められている感じがさせられます。

此の精神をヨットによって表現しそのレースを私共の村この花渕湾で行れたということは私共村民の光栄として村誌の一頁を飾り永く残さるることを思うと喜びと誇りの一入大なるものを感じます。

皆さんに於ても今年の今月今日ここで行われたレースは勝敗を度外視して一様に皆さんの人生に深く刻まるるものであることを信じます。こうした意義深き行事に当り私共が皆さんに協力した何ものもなかった事を深く愧ぢるものです。只漁村民の心なきためと御許し下さらば幸です。

私共は今日を機縁にヨットに対する認識を高めその普及と隆盛を祈念し且つ皆様の前途を祝福して止みません。以上誠にとりとめのない言葉ですが御挨拶にかえさせて頂きます。

昭和三十二年七月廿九日

七ケ浜村長　　渡　辺　今　助

（原文のまま）

以上は33年度インターカレッジの際に送られた祝辞の一つであるが，われわれの道楽にやっている競技に対して，開催地の方々がどんなに気を使って居られるかがうかがわれる。われわれもその厚意に答えられるだけの行動をしたいものである。（小沢）

理　事　会　報　告

第9回　7月2日　於体協会議室

出席者　小沢理事長，堀江，山本，岩田，亀井，林各理事

議　事

1. 理事会開催日について　定例開催日を毎月第1，第3水曜日とすることを確認した。

2. 各委員会の開催は必ず各理事にも通知することとなっているが，これは定例理事会通知に書込んで通知することとする。

3. オリンピック招致委員会の報告　山本理事より体協に於ける同会の動きを報告7月末までに日本ヨット協会として何処で行うかを決定，施設原案及び予算を出さなければならない旨を説明した。

4. 東京オリンピックに関して　小沢理事長より6月11日の第1回委員会の報告を行い，

イ，横浜市田中助役との話合いを報告。

ロ，岩田理事より東急との話合いを報告。

ハ，同委員会は第2回を7月16日理事会と併せ開催する。

ニ，山田委員にオリンピックハーバー原案の作製を依頼することを定めた。

5. 造艇委員会は学生ヨット連盟依頼の艇につき7月10日委員会を持つことを山本委員長より報告。

6. 普及委員会は協会報原稿締切りのため7月22日委員会を開催することを堀江委員長より報告。

6. 国際委員会は国際スナイプ協会えの登録料年会費弗 250$ の外貨の枠を貰った旨岩田委員長から報告した。

第10回　7月16日　於体協議室

出席者　小沢理事長　山本，岩田，川越，和田，竹下，亀井，平田各理事　山田，大村東京オリンピック委員　山口国際委員

議　事

1. 第13回国体役員の件　13回国体では役員費を節約するため，ヨット協会から出張する役員を4名に止め，他は近県で補充することとなった旨，予て上田理事から通知を受けていたが，小沢理事西下の節，上田理事から滋賀県準備委員会案を示されたのでこれにつき協議，原案を一応了承した。ただ自費を以て出張参加する役員の有無については協会から連絡し調査することとした。

（以下7頁につづく）

1958年度全日本学生選手権大会記録

予選の部

1　組

岡山大	20	15	30	125	5
	15	21	24		
明大	27	22	11	144	3
	28	31	25		
神商船	25	34	19	138	4
	23	14	23		
京大	21	30	25	152	1
	29	22	25		
東北大	27	16	32	145	2
	25	29	16		
	A	A	A	総計	順位
	S	S	S		
	一回	二回	三回		

2　組

大阪大	32	25	17	161	1
	23	28	36		
名大	18	14	9	109	5
	27	18	23		
樽商大	9	27	10	110	4
	18	23	23		
日大	36	19	27	144	2
	27	22	13		
同大	23	35	9	138	3
	25	29	17		

3　組

中大	41	34	43	225	2
	23	37	35		
香川大	4	8	9	76	6
	23	16	16		
東大	35	24	19	196	3
	37	37	44		
関学	42	44	38	228	1
	35	33	36		
東北学	29	26	20	105	5
	12	12	6		
九大	18	35	39	183	4
	27	36	28		

決勝の部

決勝進出校選手氏名

京都大学

1 宮地　孝
2 北田　修
3 小田　順一
4 河井　淳
5 西ノ園晴夫
6 高木多喜男
7 高柳　和彦
8 山下　泰
9 小森　星児
10 吉良　潤
11 丹羽　史朗
12 島津　義高
13 小山　稔夫
14 杉野　広
15 村上　一朗
16 長谷川博久
17 梶井　恒雄
18 増田　哲将
19 藤井　泰郎
20 福井　清
21 深沢健次郎
22 野田　治
23 三上　英三
24 田中　一行
25 恩田　怜

関西学院大学

1 落合　進
2 浜崎健之介
3 小杉　一夫
4 伊藤　憲男
5 坂本　良和
6 野辺　明
7 片山　晃基
8 前田　良夫
9 広瀬　一郎
10 船橋　正義
11 柴田　友義
12 前田　幸男
13 広野　克己
14 松岡　俊之
15 高橋　忠志
16 木田　猛
17 安原　恒男
18 金本　武司
19 井上　尚
20 長尾　武志
21 増山　行夫
22 中田　征二

日本大学

1 石井　悦人
2 座間賢太郎
3 若田部　保
4 中村　潔
5 浦井　克昇
6 高橋　修三
7 酒井　義男
8 飛知和達司
9 内田　健司
10 中村　秀三
11 山本　由紀
12 佐藤　正
13 中村実佐雄
14 後藤　弘
15 三国　滋
16 平尾　雅之

大阪大学

1 原　涼一
2 山本　良男
3 辻　忠良
4 池田　博昌
5 木下　雅晴
6 善木　雅昭
7 羽田　隆司
8 原本　正弘
9 谷口　悦一
10 小山　博記
11 飯田　裕朗
12 斎藤　定一
13 島住　幹夫
14 鈴木隆一郎
15 高田　俊男
16 竹内　賢二
17 陶　文暁

東北大学

1 泉谷　秀人
2 森谷　英一
3 林　昭正
4 渡辺　義一
5 今井　卓雄
6 柳沢　晃一
7 岩下　宏
8 古川　芳徳
9 伊吹　万里
10 片岡　克
11 大谷　正彦
12 田中　重明
13 小野寺邦夫
14 手島　忠
15 加藤　裕三
16 安部　倖永
17 鈴木　知二
18 赤川　栄司
19 堀江　忠寿
20 横山　晃

中央大学

1 栗原　広司
2 足立　英治
3 安住　慎一
4 片岡　紀彦
5 金子　堯爾
6 多胡　博光
7 渡辺　憲司
8 塩島　啓司
9 赤池　達也
10 日向野明彦
11 片岡喜三郎
12 山田　貴司
13 飯塚　泰弘
14 石井　誠治
15 秋山　雄治
16 山内　良一
17 田辺　裕
18 坂本　圭吾
19 小川　宗平
20 浦田　征之
21 大谷　栄
22 今井　英雄

決勝出場艇

スナイプ	A 72	D 42	G 424	J 764	M 425	P 3126
	B 642	E 290	H 2006	K 3026	N 18	Q 430
	C 3102	F 854	I 3007	L 21	O 433	R 37
十二呎	イ 2011	ニ 73	ト 401	ヌ 763	ワ 444	タ 3118
	ロ 642	ホ 207	チ 2201	ル 3017	カ 1041	レ 54
	ハ 3120	ヘ 854	リ 3006	ヲ 30	ヨ 426	ソ 430

予 選 の 抗 議

IS－1　コンデイション　風SE2m/s　潮N⅓ノット

①抗議艇S21号（岡山）対被抗議艇S 854 号（明大）
　抗議条項　30条5項　判決　却下

IA－1　コンディション　風SE2m/s　潮N⅓ノット

②抗議艇A 444 号（東北）対被抗議艇30号（岡山）
　抗議条項　30条4項　判決　却下（現場で抗議旗を振っていない）

IS－2　コンディション　風SE4～5m/s　潮なし

③抗議艇S2006号（東北）対被抗議艇A430号（明大）
　抗議条項　30条5項A　判決　A 430 号失格（監視艇の現認あり）

④抗議艇S 424 号（東北）対被抗議艇S3102(神商船)
　抗議条項　30条4項A　判決S3102号失格

IA－2

⑤抗議艇A3120号(神商船）対被抗議艇A430号(明大)
　抗議条項　30条4項A　判決　却下（註監視艇からは此の件の報告なく同じ場所でA3120とA73との件を二つの監視艇から報告している）

IS－3　コンデション　風S4～6m/s　潮なし

⑥抗議艇S3102号（明大）対被抗議艇S21号（東北）
　抗議条項31条1項のB　判決S21号失格（監視艇の現認がある）

⑦抗議艇S642号（明大）対被抗議艇S424号（京大）
　抗議条項　30条4項のA　判決　S424号失格

⑧抗議艇A2011号(明大）対被抗議艇S430号（岡山）
　抗議条項　30条4項のA　判決　却下（抗議書の不備によるものか）

⑨レース以前の抗議（スタート10分前の事件）
　抗議艇S3007号（京大）対被抗議艇S2014号(明大)
　抗議条項　36条1項　判決　3007号の損傷に対しS2014号は弁償すること。

IA－3　コンディション　風S3m/s　潮Sえ

⑩抗議艇A763号（東北）対被抗議艇A426（神商船）
　抗議条項　30条4項のA　判決　却下（監視艇からはA 763 号の航行に支障をきたさなかったと云う証言があった）

IIS－1　抗議なし　　IIA－1　抗議なし

IIS－2　抗議なし　　IIA－2　抗議なし

IIS—3 コンディション風SW3～4m/s潮Nえ½ノット

⑪抗議艇S764号（日大）対被抗議艇S290号（同大）
　抗議条項　30条5項Aの3　判決　不成立

⑫抗議艇S290号（同大）対被抗議艇S21号（日大）
　抗議条項　31条1項Bの2　判決　S21号艇失格

IIA－3

⑬抗議艇S3126号（阪大）対被抗議艇A763号(日大)
　抗議条項　30条5項のA　判決　A763号失格(監視艇現認)

⑭抗議艇A207号（京大）対被抗議艇A430号（阪大）
　抗議条項　30条4項のB　判決A430号失格(監視艇の現認あり)

⑮抗議艇A54号（阪大）対被抗議艇A73号（同大）
　抗議条項　30条5項Aの3　判決　却下（監視艇はA73号の件があったことを報告している）

⑯抗議艇A430号（阪大）対被抗議艇A73号（同大）
　抗議条項　30条5項Aの2　判決　却下（註抗議書に自艇をA 340 号と書いたためか，猶此の抗議の中でA430がA207に接触した責任がA73にあると云っているが監視艇はA430とA207の接触は見ている。）

　その他危険水域通過を監視艇に発見されたためA3006号，A73号，A854号，A2011号は失格となった。

IIIS-1 抗議なし　IIIA-1 抗議なし　IIIS-2 抗議なし

IIIA－2　コンディション　風S4m/s　潮Nえ⅔ノット

⑰抗議艇A73号（中大）対被抗議艇A426号（関大）
　抗議条項　30条5項　判決 不成立(監視艇から此の時二艇間に⅓艇身の水があったとの報告があった°)

IIIS－3　コンディション　風SE5m/s　潮S

⑱抗議艇S3007号（関大）対被抗議艇S18号（東大）
　抗議条項　30条5項　判決　却下

⑲抗議艇S2006号（関大）対被抗議艇S18号）東大）
　抗議条項　30条5項　判決　却下

⑳抗議艇S18号（東大）対被抗議艇S2006号（関大）
　抗議条項　30条2項のB　判決　不成立

㉑抗議艇S425号（東大）対被抗議艇S2006号（関大）
　抗議条項　30条4項A　判決　却下（註自艇の番号を245号と書きちがったためか）

㉒抗議艇S642号（香大）対被抗議艇S21号（東北学）
　抗議条項　30条4項のA　判決　S21号失格

IIIA－3　コンディション　風SE5m/s

㉓抗議艇A3118号（中大）対被抗議艇A444号(東大)
　抗議条項　30条5項のA　判決　A444号失格(監視艇3号は現認，4号は此の時A444はプロパーウエイがあったと報告している）

決勝の抗議

決S—1　抗議なし　　決A—1　抗議なし

決S—2　抗議なし　　決A—2　抗議なし

決S—3　コンディション 風WSW3m/s 潮えN½ノット

㉔抗議艇S37号（阪大）対被抗議艇S290号（日大）

抗議条項　30条5項のA

ケースの説明　A図参照

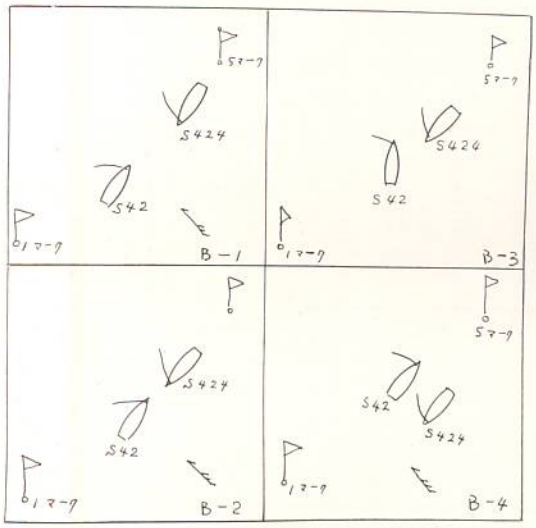
A図1　290は先行艇の影響によって，マーク回航後風下に落ち，約3艇身ほどおくれて37はマークを回航した。

A図2　37の下1艇身，前方2艇身のあたりで290は突然タックを行い，

A図3　37は290をさける為にかじを切ってベアリングした。

A図4　37はポートタックで，290はスターボードで離れた。（原文のまま）

判決　S290号は失格(註本件は監視1号艇監視員鬼鞍君の報告がある。)



㉖抗議艇S290号（日大）対被抗議艇S37号（阪大）

抗議条項　30条4項A

ケースの説明　C図参照

S 250号艇はスターボートタックで第5マークへ向う途中S37号艇はポートタックで接近して来た。再三再四警告にもかかわらず接近し危険範囲に入ったのでS290号艇は風上一ぱいによけた。

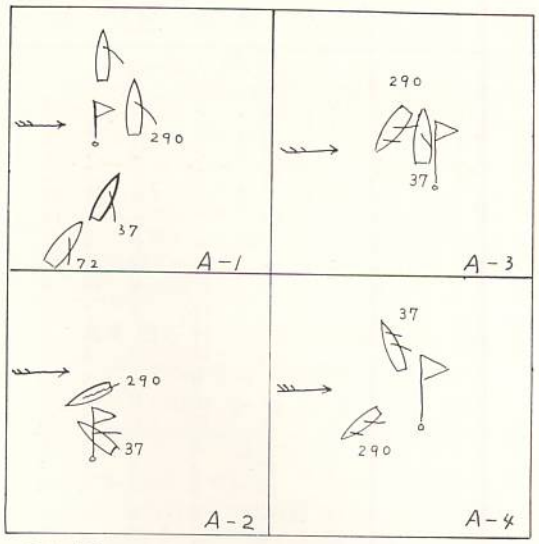
よつてS 290号艇はS37号艇に30条4項Aにより抗議致します。（原文のまま）

判決　此の抗議は抗議締切時間より3分30秒過ぎたため受理されず却下となった。

決A—3　抗議なし

帆走委員は次の諸氏であった。

長　岩田幸彰，副　福島弘毅，副　川越敬，和田欣之



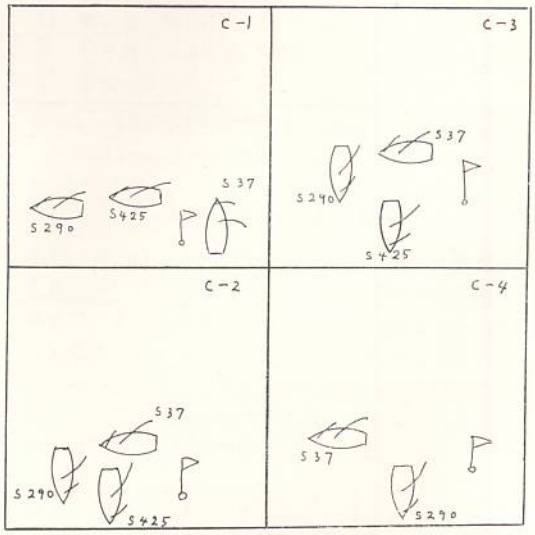
㉕抗議艇S42号（日大）対被抗議艇S424号（京大）

抗議条項　30条4項A

ケースの説明　B図参照

第1マークより第5マークにフリーで行く途中ポートタック艇424号艇を衝突をさけるためスターボートタック42艇号艇は下にさけた。よって30条4項Aにより抗議します。（原文のまま）

判決　不成立



助，西田勝美，保田虎之助，原田俊作，平野和夫，岡田多摩男，島田平八，宗田清，青山翠，鬼鞍豊，藤代大，丸山充夫，関野清成，加納寛文，大原保，平野節夫，西田信直，高橋三雄

此の抗議を載せるに当り抗議文は原文により図面は凸版にするため，なる可く元の図のあじを失わない様にして画き直した。

猶，註の部分は私が監視の報告を調べて入れたものである。（小沢）

決勝記録表

校名		一回戦 艇, 選手	着順	得点	二回戦 艇, 選手	着順	得点	三回戦 艇, 選手	着順	得点	総点		順位
京都大学	S	A 6 19	14	5	M 2 13	10	9	G 7 5	15	4	94	149	⑤
		B 4 17	5	14	N 6 19	12	7	H 16 6	3	16			
		C 5 16	10	9	O 4 17	6	13	I 4 17	2	17			
	A	イ 1 9	13	6	ワ 3 11	2	17	ト 12 14	18	1	55		
		ロ 3 11	4	15	カ 10 23	18	1	チ 21 1	16	3			
		ハ 12 21	12	7	ヨ 1 14	16	3	リ 3 11	17	2			
関西学院大	S	D 10 8	DNF	0	P 4 11	17	2	A 4 11	16	3	79	197	②
		E 5 16	9	10	Q 5 14	8	11	B 10 8	4	15			
		F 4 11	7	12	R 10 8	3	16	C 5 14	9	10			
	A	ニ 3 2	7	12	タ 7 8	6	13	イ 3 2	14	5	118		
		ホ 1 6	5	14	レ 1 6	3	16	ロ 1 6	2	17			
		ヘ 7 8	3	16	ソ 3 2	7	12	ハ 7 8	6	13			
日本大学	S	G 5 7	DNF	0	J 5 10	14	5	D 5 10	17	2	75	133	⑥
		H 4 14	4	15	K 6 15	7	12	E 6 15	DIS	−2			
		I 6 15	2	17	L 4 10	4	15	F 4 14	8	11			
	A	ト 3 10	DNF	0	ヌ 8 9	14	5	ニ 1 16	12	7	58		
		チ 8 9	17	2	ル 1 2	11	8	ホ 3 10	11	8			
		リ 1 12	10	9	オ 3 10	9	10	ヘ 8 9	10	9			
大阪大学	S	J 12 13	DNF	0	D 13 12	18	1	P 12 13	13	6	64	159	④
		K 1 17	8	11	E 1 17	11	8	Q 8 11	6	13			
		L 8 11	13	16	F 8 11	9	10	R 1 17	10	9			
	A	ヌ 7 2	16	3	ニ 3 5	12	7	タ 9 4	9	10	95		
		ル 9 4	14	5	ホ 9 4	4	15	レ 7 2	3	16			
		ヲ 3 5	9	10	ヘ 7 2	8	11	ソ 3 5	1	18			
東北大学	S	M 13 7	11	8	G 13 7	16	3	J 13 7	14	5	95	199	①
		N 1 17	12	7	H 1 17	13	6	K 4 12	5	14			
		O 4 12	3	16	I 4 12	1	18	L 1 17	1	18			
	A	ワ 5 10	1	18	ト 2 11	13	6	ヌ 3 8	7	12	104		
		カ 3 8	6	13	チ 3 8	10	9	ル 9 15	13	6			
		ヨ 2 11	11	8	リ 5 10	1	18	オ 5 10	5	14			
中央大学	S	P 1 7	DNF	0	A 4 15	15	4	M 22 10	12	7	93	175	③
		Q 4 15	6	13	B 22 10	2	17	N 4 15	7	12			
		R 22 10	1	18	C 7 14	5	14	O 7 14	11	8			
	A	タ 3 6	8	11	イ 3 9	17	2	ワ 3 9	4	15	82		
		レ 13 12	15	4	ロ 13 12	15	4	カ 13 12	15	4			
		ソ 9 5	2	17	ハ 5 6	5	14	ヨ 5 6	8	11			

記録の読方　1回戦京大A6 19とあるのは，スナイプ72 号艇 6 高木 19 藤井 の略である。

競技会雑感

7月26日の開会式は塩釜の公民館で行われた。学生選手権大会は日本ヨット界の最大な競技会で参加選手約400名である。これだけの人が着席のままで式を開いたのだがこれは今までにない云であった。東北ヨット協会の努力により各方面の祝辞をいただいたが，式の後のウエルカムパーティーで塩釜市長呈供のアトラクションとして塩釜の女子中学生の舞りは選手をなごやかにした。

7月27日は時々曇りで風もあり申分のないヨット日よりであったが，太平洋から入って来るうねりが高く，琵琶湖の連中には苦労であったろう。7月28日は朝来の雨で，選手も役員も大変だと思わせたが，此の日の第2レース目から雨も小降りになった。風は一時6米/秒 まで吹いた。表紙の写真は此の日のものである。（山路君写す）

決勝の29日は前二日とうって変って無風となった。スタート係りの加納君がしばしば本部え電話を掛けて来て，風の方向のちがいを報ずる。帆走委員会もそうそうコースを変えるわけに行かず帆走示指書を出す。第1レースでは，スナイプがスタートして次のデインギーのスタート3分前位まで全艇スタートラインを離れず帆走委員会をびくびくさせた。第3レースには風は出たが，予想とは全くちがった風となり，殆んどフリーのレースとなった。

競艇は東北ヨット協会内の優秀艇をそろえたのだが学校持参の帆と組合せが悪いもの，善いものが出来，何時もトップグループに入って来るもの，何時もボトムグループに入るものとが出来，各校とも悪い艇で何点かせぐかで勝敗をうらなっていた様である。

国体では県や市や，体協が手つだつて競技の準備を行うのだが，今の度びは，それより大きい競技会をメンバーの少い協会が，財政面から運営面まで一手で行われた。あまつさえ，地元の東北大が優勝しのただから遠征軍も完全に頭をさげた。

関西学院と東北大学とは最後まで勝敗がわからず，或は関大の三連勝ではないかと，読売カップをわたしきりにするかどうか話題になったが残念にもわずかの差で三連勝を逸した。

（2頁より）

2. 運輸省観光局ヨットハーバー補助費の件　山本理事より同局から国際ヨットハーバー補助費計上のため陳情と計画及び予算原案を作るため連絡する必要あることの説明があり，しばらく山本理事を窓口とすることとした。

3. ドラゴンクラス購入の件　山口委員よりローマオリンピックに備えてドラゴンクラス1艇を西独アベキンラスムッセン造船所より購入したき旨申出あり，協会として援助することとして，岩田理事が大蔵省と接渉することとした。

5. 東京オリンピック対策　山田委員よりオリンピックハーバー原案を示され，これにつき種々意見あり小訂正してこれを日本ヨット協会案として，横浜その他に当ることとした。猶オリンピック委員会は7月23日11回理事会と併催することとした。

6. 小沢理事長西下中，中国学連に抗議上告の動きあるを知り，実情を質した所，中国代表の全日本学生選手権大会に出場資格につき疑義を感ずるものがあった事を報告あり，中国ヨット協会に公文で確認することとした。　以上

"舵" 201号　(1958年8月号)　定価 140円　送料 16円

（内容一部）ディンギー・クルージング（福永昭）ヨットの安全のために（松崎海上保安部長）世界ヨットシリーズ：国際14′フッター（AEOLUS）オリンピックを飛石にした日本のヨット：ヘルシンキの巻（小沢吉太郎）　その後のフェニックス（三上仁一）ヨットレーシング・テキストブック（平田克己）東京オリンピックは恐しい（岩田幸彰）小型ヨットのぎ装と整備（山路恒夫）帆の流体力学（カリー）その他近畿関東各インカレ戦評ニュース等

重版 ヨット・競技と練習 出来　定価 320円　送料 24円

その他ヨット関係図書発行・目録呈

発行所　舟艇協会出版部

東京都中央区銀座3の2・電（56）5400・振替東京25521番

委　員　会　報　告

技術委員会　第2回　7月10日　於体協会議室

出席者　山本委員長　横山，内田，戸田，今井，山路，栂田各委員　欠席者　渡辺，高原各委員

議　事

1. 競艇登録計測規則の件

原稿が出来上ったのでA級，スナイプ級，フイン級，スター級の計測書を一冊にまとめて作製する。

2. A級デイギーに代る艇の計画

イ．現在11種類の近似艇があるがこれを8月17日頃横浜に集めて試乗し新設計の参考にする。

ロ．新設計は，①横山②渡辺③内田④戸田，今井の4組で夫々原案を作る。

ハ．試作艇の建造費の調達は別途研究する。

普及委員会　第3回　7月23日　於体協会議室

出席者　堀江委員長　和田，林，山田，山名

議　事

協会報第2号の取材方針について話合を行つた。

東京オリンピック委員会　第2回　7月16日

理事会と併催につき省略す。

体協えの報告

7月26日下記の通り国際委員会の原案通り国際行事計画書を提出した。

昭和34年度国際スポーツ行事用計画書

競技会名称	期　日	場　所	人員	派遣・招待別	経　費
スナイプ級世界選手権大会	自34. 11. 15 至〃 11. 22	ブラジル国 ポート・アレグレ	3	派遣	
スター級日英対抗（香港遠征）	自35. 1. 10 至〃 1. 17	香　港	7	〃	
日　比　対　抗	自34. 9. 20 至〃 9. 30	横浜及西宮	7	招待	外貨不用

協会報の配布と地方記事についての御願

協会報の配布については，第1号3頁右欄の普及委員会議事録にある通り，各地方協会，都道府県体育課，地方体協，関係官庁，その他に送ることになっている。第1号は取りあえず地方協会に各100部を送った。然しこの一様な送り方は，過不足を生ずることは確である。従来からも多く送られ過ぎた印刷物は机の下でほこりにまみれていることが多い。一方少い所では必要な所に配ばられていない。これを調整するために先にどんな所にくばっていただいたか御報告願うことにしたが，未だに3通しか御回答に接していない。これはこの会報に関心の薄のではないかと何んだかがっかりさせられるものがある。

地方便りも載せて地方の動きを知り合い度いと考えている。各地方に通信担当者をきめていただけないものだろうか。

レース記録は全日本のもの以外に地方で重要なものは出来るだけ掲載する心算りだから記録は手まめに送っていただき度い。

協会は目下三種郵便物の認可を取る手続き中であるが，それまでは開封と同じ郵税を払わなければならない。直接送付を希望の方は協会まで一回につき10円の送料を払って下されば直接協会から送ります。

◇後　記◇

颱風があったり，旅行をしていたりしたため2号の出来上りが非常におくれ，普及の皆さんにも気をもましたがやつと出来上る目途がついた。金子君には例によって非常な世話になった。（吉）

急告　第13回国体のスナイプには東洋レーヨンの好意でテトロンセールを夫々の府県に一枚づつ貸すことが出来ることになった。猶このセールは希望者に通常販価の三割引の２万５千円で譲ることになっている。若し希望なら参加府県が使用するものをそのまま譲ることも出来る。代金の決済は各水域協会で扱って貰う予定である。希望者は八月末日までに「大津市中保町　上田健治郎」まで申込まれ度い。

色々な競技会の記録をいただいて，記録の苦労に頭が下るものがあるが，近頃のには，レース毎のコースは記入してあっても，天候，風速，潮流は欄だけあって記入してないのが多い。記録は後日にのこすものであるから是非記入していただき度い。

記入表に着順，得点と云うのがある。これが大部分，着順が書いてない。と云うのは失格した艇は「失」と書いてあって何番目にゴールしたのか分らない。着順はゴールの順序だから失格だろうと何んだろうとゴールの順序を記入しその後抗議を整理した後，順位を定め，得点を記入する可きだろうと考える。競艇の性能を研究したり，選手の技能をしらべたりするにはこれが絶体に必要である。

第６回日本外洋レース兼第３回神子元レースは昭和33年７月31日21時横浜スタートで行われた。１着艇は竹下政彦君艇長の塩風で所要時間は49時間50分で第２着艇はそれから12時間遅れ他は棄権した。正確な報告は締切り前に届かないので第３号に掲載する。

学生選手権大会は別記の通り東北大学が優勝したがこれで東北関院大学は来年度間違いなく，西の宮の全日に出場出来ることになった。決勝レースのあと大よろこびしていたわけである。

写真の説明

表紙インカレ　第２日目　　山路君写す
カットインカレ　第２日目　　小沢君写す
裏表誌「次のコースは」　　和田君写す
左から　発着委員長　加納君，帆走副委員長　福島君，帆走委員長　岩田君，帆走委員　平野君

日本ヨット協会報第二号
昭和卅三年八月七日発行　毎月七日発行
編集者兼発行人　東京都新宿区柏木三ノ三九七
印刷所　東京都台東区坂本町二ノ二六
小沢吉太郎
光芸社美術写真製版印刷所
（非売品）

MOLECULAR SIEVES
モレキュラー　シーブス
Linde
新しい吸着剤
物質を分子の大きさによって分離する

選擇吸着力が在來の吸着剤よりも数段優れている
次の様な用途に是非一度御試験下さい……
◇液体・気体の乾燥
◇気体の精製…脱硫・脱アンモニア・脱一酸化炭素・脱炭酸ガス等
◇廃ガスより不飽和炭化水素の回収…エチレン・アセチレン・プロピレン・ブデン等の回収
◇炭化水素の分離・精製…n—と—isoの分離等
◇触媒…イオン交換によるニッケル触媒等の製造
◇金属の分離…金と銀の分離、コバルトニッケルの分離等
LINDE AIR PRODUCT COMPANY
A Division of Union Carbide and carbon Corporation
日本一手販売店　巴工業株式会社　化学品部
本　社　東京都中央区銀座１—６（皆川ビル）　TEL. 京橋(56) 8681～5
出張所　大阪市南区末吉通り４—16(新橋ビル)　TEL. 船場(25) 5077～8

日本ヨット協会報

YACHT BULLETIN

NO. 3 '58.
SEPT.

発行 日本ヨット協会
千代田区神田駿河台4-6

一般クラブを育てよう

国民体育大会も今年で13回になるが第2回の頃も参加県数は20に近かかつた。今年も25府県位である。此の数から見るとヨットは大へん普及されたとは云い難いものがある。又一方，地方ヨット協会の実情を見ても（別表参照）実業団は団体数も艇もよく増加しているが，一般のクラブとなると，クラブ数も艇数も一向ふえていないことがわかる。

日本協会も地方協会もヨットの普及に力をいたしていないわけではない。それなのに協会メンバーとしてのヨット乗りはふえないのである。ある時「協会は一般のヨット愛好者を楽しくヨットに乗れる仕組を考えて呉れ」と云われたことがある。誠にこの仕組なしでは，講習会を100やつても卵を産んで孵えすことを知らない鳥のようなもので，ヨット乗りがふえて行かないのは当然である。

現在あるクラブは，実体は各大学のOBの集りである。いわば同窓会であつて，艇もクラブハウスもヨット的なものはほとんど持つていないものが大部分であつて，もつぱら現役の学生に依存しているようである。

こんな有様だから先に行れ始めたインター・クラブレースが，後から行れた実業団レースより盛んにならない。

オリンピックが行れるにしても，外国から選手を招待するにしても，その主体となるものはクラブであるべきである。そのクラブを育てるために，現在の各OBクラブは，現役の後援事業は別として，ヨットライフを楽しむために，合同して艇とクラブハウスを作り又同時に一般のヨットに愛好者を迎え入れられないものだろうか。

ヨットはわが国では歴史の浅いスポーツであるから，われわれの年令ではおたがいに支出し得るものは多くはないが，それはそれなりに寄せ合えば現在よりましな施設が作り得るのではなかろうか。

協会創立以来ともかく，ヨットと云うスポーツの好さを一般に認めさせることに一応の成功を見たのだから，今度はそれを質的に量的に発展させる努力をしなくてはならない。それには先ずいいクラブを育てることが必要だと考える。

（小沢）

理　事　会　報　告

第11回　7月23日　於体協会議室

出席者　山本，竹下，岩田，川越，林，和田各理事，山田，千野オリンピック委員，山路普及委員

此の日東京オリンピック委員会と普及委員会と理事会とを併せ行うこととなつたが，小沢理事長が台風のために館山から帰ることが出来ないので自然流会の形になり，山田委員に依頼した。横浜オリンピック・ハーバーの原案につき審議研究をして解散した。

第12回　8月6日　於体協会議室

出席者　小沢理事，山本，岩田，竹下，堀江，和田，秋田各理事，山田千野オリンピック委員

議　事

1.　オリンピック・ハーバーに関する件

山本理事より横浜港湾局長と日本ヨット協会側（小沢，山本，千野）と会合の説明を行つた。要旨次の通り

イ．横浜市としては港湾計画上三渓園下にはハーバーを作れないから他に適当な所を探して欲しいと云う横浜市側の希望があつた。

ロ．それについて富岡の海水浴場附近はどうか，との話があり，即日同所を見学した。現場は水もきれいで環境も良く，電鉄駅にも近いので一応ここを候補地として計画して貰うことになつた。

ハ．施設予算は港湾局が編成して呉れるが，その他にマーク，計測設備，家具，用具，通信設備，モノタイプ製作費等は，ヨット協会で算出することとした。

2.　全日本学生選手権大会の報告

小沢理事長から

イ．成績の報告

ロ．日大生の乱暴事件があつて，地方新聞社会面の記事となつたこと。を報告した。

ハ．岩田理事から当日の帆走委員長としての経緯の説明があつた。

3.　前項(ロ)に関連する事項

日大生の事件のみならず，近頃学生に粗暴のふるまいが多いことが各理事より報じられ，これが抜本的対

（7頁に続く）

代議員会で各協会の **現況調査** をすることがきまつた。その報告をまとめて下の表とした。人員の欄でAは経験熱意共に十分な人，Bは経験もややあり熱意もある中堅的な人，CはA，Bに属しない人及び過去にその協会の中心人物でも現在あまりヨットに関係ない人，艇種の欄で，Aは建造年が新しく，性能優秀なもの，BはAより旧いがレースに耐えるもの，Cはレースは出来ないが，練習は出来るものとした。調査は3月31日現在とした。各報告の備考を要約すると，中部「最近の数は本表と相等の差があり，近日再査する」。関西「①人員は昨年度の実績によつた。②学生は総てB。③クラブ・実業団所属人員中約2割はA。④「他」の5名は個人で協会に加入，協力している人でAとした。⑤艇種のABCは協会手持の資料で判断した」。中国「①団体の「他」はクルーザーを中心とする2。②人員中Aはヨット部の中心者，Bはヨット部員，Cは部外の経験者又は時々乗艇するもの，艇種の「その他」の項の学生の8は駐留軍払下，「他」の3はクルーザー2，シーホース1」。四国「人員欄「他」には高校を含む」。等である。

地方別	構成と人員							艇数										
	団体別		団体数	人員				12呎級				スナイプ級				規格艇	その他	計
				A	B	C	計	A	B	C	計	A	B	C	計			
東北	学生	学連加入	2	10	40	30	80	3	12	3	18	0	4	4	8	0	0	26
		非加入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	クラブ		1	10	5	0	15	0	0	2	2	0	0	1	1	1	1	5
	実業団		5	5	10	40	55	0	4	1	5	1	3	7	11	0	0	16
	その他		3	5	20	30	55	2	6	9	17	0	5	9	14	0	1	32
	計		11	30	75	100	205	5	22	15	42	1	12	21	34	1	2	79
中部	学生	学連加入	5	14	42	69	125	8	10	21	39	6	11	21	38	0	0	77
		非加入	7	11	38	50	99	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	クラブ		10	29	36	55	120	4	4	6	14	5	4	0	9	0	4	27
	実業団		18	11	33	190	234	12	3	7	22	18	5	3	26	0	7	55
	その他		3	4	3	12	19	0	0	0	0	0	2	0	2	0	2	4
	計		43	69	152	376	597	24	17	34	75	29	22	24	75	0	13	163
関西	学生	学連加入	11	0	187	0	187	17	14	21	52	6	8	4	18	0	0	70
		非加入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	クラブ		8	20	85	0	105	2	2	0	4	2	0	0	2	0	0	6
	実業団		9	10	44	0	54	1	5	0	6	22	0	0	22	0	0	28
	その他		0	5	0	0	5	1	1	0	2	1	1	1	3	0	0	5
	計		28	35	316	0	351	21	22	21	64	31	9	5	45	0	0	109
中国	学生	学連加入	4	47	85	230	362	3	11	7	21	1	6	12	19	0	8	48
		非加入	12	45	65	150	260	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	クラブ		1	6	2	10	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実業団		9	68	95	300	463	5	3	4	12	5	5	15	25	0	0	37
	その他		2	18	5	5	28	0	0	18	18	0	0	10	10	0	3	31
	計		28	184	252	695	1131	8	14	27	51	6	11	37	54	0	11	116
四国	学生	学連加入	5	70	55	0	125	0	8	2	10	0	9	1	10	0	2	22
		非加入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	クラブ		2	35	0	0	35	0	3	0	3	0	4	0	4	0	3	10
	実業団		9	87	52	116	255	0	2	6	8	0	3	7	10	0	5	23
	その他		7	42	30	31	103	0	16	0	16	0	15	0	15	0	2	33
	計		23	234	137	147	518	0	29	8	37	0	31	8	39	0	12	88
九州	学生	学連加入	4	46	76	80	202	9	6	13	28	4	9	10	23	0	3	54
		非加入	3	6	9	18	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	クラブ		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実業団		7	51	51	125	227	0	8	1	9	3	3	6	12	3	1	25
	その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計		14	103	136	223	462	9	14	14	37	7	12	16	35	3	4	79

第9回全日本クラブヨット選手権大会記録

クラブ名	級	一回戦			三回戦			二回戦			計		
		氏名	着順	得点	氏名	着順	得点	氏名	着順	得点	小計	総計	順位
兵庫KG	S	海徳・塩路	3	12	海徳・若林	6	9	塩路・海徳	11	4	25	58	3
	A	伊賀・森本	3	12	堀江・森本	8	7	伊賀・森本	1	14	33		
名工会	S	柴田・古川	9	6	柴田・村木	14	1	古川・稲葉	3	12	19	37	10
	A	山田・村木	10	5	稲葉・沖辻	13	2	沖辻・山田	4	11	18		
関大OB	S	竹内・藤原	11	4	竹内・藤原	2	13	竹内・藤原	8	7	24	49	4
	A	野間・松本	キ	0	野間・松本	2	13	野間・松本	3	12	25		
大阪KG	S	三井・森田	4	11	三井・森田	7	8	三井・加藤	5	10	29	65	2
	A	花崎・小川	4	11	小川・花崎	3	12	花崎・小川	2	13	36		
黒潮セーリング	S	戸田・今井	10	5	戸田・今井	11	4	戸田・今井	9	6	15	46	5
	A	山路・疋田	2	13	山路・紅野	5	10	山路・紅野	7	8	31		
セントポール	S	糸川・野崎	14	1	糸川・太田	10	5	野崎・佐藤	10	5	11	38	9
	A	中根・坂間	6	9	中根・魚住	7	8	中根・魚住	5	10	27		
琵琶湖	S	長谷川・林	13	2	長谷川・林	3	12	長谷川・林	4	11	25	35	12
	A	青木・小橋	11	4	青木・小橋	10	5	青木・小橋	14	1	10		
関西淡青	S	秋田・成富	7	8	成富・太田	8	7	成富・金井	6	9	24	31	13
	A	加藤・岡野	キ	0	加藤・相馬	11	4	加藤・太田	12	3	7		
中大OB	S	松下・末吉	5	10	松下・末吉	1	14	松下・末吉	1	14	38	73	1
	A	南部・石原	1	14	南部・石原	1	14	南部・北島	8	7	35		
早風	S	林・渡辺	6	9	渡辺・横田	4	11	林・横田	12	3	23	44	6
	A	犬伏・発生川	8	7	犬伏・渡辺	6	9	発生川・渡辺	10	5	21		
乙舳	S	松村・深谷	2	13	深谷・小林	9	6	松村・小林	13	2	21	41	8
	A	間宮・府谷	5	10	府川・椎名	9	6	椎名・間宮	11	4	20		
白鷗	S	出水・吉本	8	7	吉本・出水	5	10	吉本・出水	14	1	18	31	13
	A	吉本・孤淵	12	3	吉本・孤淵	14	1	吉本・孤淵	6	9	13		
関東淡青	S	平田・山田	1	14	山田・田中	13	2	平田・田中	7	8	24	43	7
	A	三浦・田中	9	6	田中・三浦	4	11	岩田・田中	13	2	19		
三田	S	占部・福吉	12	3	占部・福吉	12	3	占部・福吉	2	13	19	36	11
	A	深江・内田	7	8	内田・二川	12	3	内田・江成	9	6	17		

第9回全日本クラブヨット選手権大会は8月24日折からの台風第号接近の報を気にし乍らも，西宮港で滞りなく挙行し得た事は全く幸運でした。

帆走委員も選手も皆んなほんとうにヨットの楽しさを味はえるレースを持とう，そしていつも帆走委員に引つ張り出されてレースのチャンスの持てない人達にも出てもらおうと云う気持で，今年は年令に制限を設けて見た。23日夜開会式及打合せ会を終つた後，皆で六甲へ登り百万弗の夜景を見ながら全選手がレースから離れ，ヨット放談をする機会を持つた事は良かつたと思いひます。クラブ選手権に行けば皆に会えるのだと云う楽しみの為，選手でなくても喜こんで出かけて来る。そんな大会にし度いと思つています。

レース当日は曇天時々小雨北風4，5米海面は全く波静と云つたコンデイションでした。

今回は頭初から親睦を強調した為，或いはレースがいい加減に成るのではないかと心配したのですが，ゴール寸前の競り合いなど仲々見ごたえのあるレースが展開し心配した事が消えたのは嬉しい事でした。しかし中にはマークタッチ等当然帆走委員会に自から申し出るのを待つていたのがそのままに成つたこともないではなかつた。レースはあく迄良心的真面に行はれるべきであると思います。

最後に当関西協会としては何時も運営の中心に当る人々が全部レースに出場した為手違いなどもあり，参加の皆様に御迷惑をお掛けした点申訳なく思つて居ります。特にリコール関係者の不慣れ等の為，三田ヨットクラブに御迷惑をお掛けした点深く御詫びすると共に同クラブの取られた真のヨットマン的態度に感謝の意を表します。

（宮川　清）

第6回日本外洋レースに優勝して

竹下政彦

20年前初めて大島レースに，西園寺さんの〃わかくさ〃号のクルーとして参加した時，伊豆半島沿岸の潮流と風の複雑さを身に泌みて感じた。其の後伊豆沿岸のクルージングをする度に愈々その複雑さに驚ろくと共に，この研究の容易ならぬことを一そう痛感した。

終戦後待望のクルーザーを手に入れ〃潮風〃と命名し，数度の大島レースに参加すると共に第1回日本外洋レース（清水レース）に出場し，始めて石室崎南端の潮流の物凄さを味つたものだが，この潮流の究明こそ外洋レース制覇の鍵であることに思い至り，其の後数回の石室崎越えを行つて経験を積むべく努力した。

一方〃潮風〃号も艇齢20年に近く性能的にも強度的にも問題があつたのでヨット仲間2人と共に新艇建造を志し，設計は小沢吉太郎氏に，建造は岡本建造所，セイルは大原弘山に夫々依頼した。

この新艇はスループで全長28呎，昭和30年秋に進水し，〃潮風二世〃と命名した。試運軽の結果は極めて性能が良いことが確認され外洋レース制覇の望をこれに托することが出来た。初レースは31年館山レースでAクラス3位を占め先づ先づの成績をおさめた。

その後31年，32年の大島レース，日本外洋レース（第4回より神子元レース）其の他館山レース，初島レースにも参加したがいづれも見るべき成績を挙げることが出来なかつた。

殊に31年，32年の神子元レースでは予期していた伊豆南端の黒潮が意外にも南下してをり，神子元島周辺の潮流が殆んど無かつた為慎重に石室崎近く迄オーバーセーリングした我々は敗北の憂目を見てしまつた。

本年5月の大島レースにはファイト不足もあり大敗を喫したが，今回の第6回日本外洋レース（第3回神子元レース）には期する所あり，準備も特に周倒を極めクルーも厳選してレースに備えた。

レースは7月31日21時，満月の中を13隻が舷を接し乍ら横浜スタートラインを横切つた。風は南西5M～8M，クローズホールドで快走し，観音崎では早くもトップに立ち幸先の良さに張切つて伊豆半島目掛けて快走した。

8月1日午前初島周辺の無風帯に掴まり，5隻が視界から動かないまま約7時間漂流してしまつた。

15時頃吹き出した南西風に乗り他艇はすべて沖コースを取つたが，我々は只1隻伊東目指して沿岸近く突込んで行つた。

果してここには南流する冷水帯があり，微風乍らどんどん南下して行き20時には待望の出し風を掴えた。この出し風は相当に強烈で，しかも長く持続し8月2日2時30分には早くも爪木崎を廻航した。この頃風がおさまり最大の難所を乗切るには余りにも弱い南西2～3Mの風となつた。しかも水温は24°に上り明らかな逆潮に乗込まざるを得なかつた。

岸近くをショートタックで漸く下田港の沖に達した時夜が明け放たれると共に昨年の優勝艇，千葉大学の〃くろしお〃号が追つて来るのが見えた。しかし夜中の走り振りから考えて，トップに立つていることは間違えないとの確信があつたので何とかここで〃くろしお〃を振り切れば優勝出来るとの自信が出て来た。

この頃から小雨が降り出して無風の中を3時間位漂流している間，一旦〃くろしお〃に抜かれたがこれは少し沖に出たため潮に流され，後戻りして行つた。

8時頃雨は止み吹き出した南の微風を利用し，暗礁帯をショートタックの連続で岸近くを這う様にして湊に10時に達した。

黒潮が弱ければこの辺から充分神子元を狙える所だが，ノーマルな黒潮の速さを予測してここが我慢のしどころと，なほ30分，石室崎灯台がはつきり見える所迄突込んでからタックした。

神子元島を廻航したのは丁度3日の正午。あれだけ西下しながら，ぎりぎりの廻航であり今更乍ら黒潮の強さには驚嘆した。

振り返れば湊辺りに後続艇が2隻霞んで見える。これから先は一路逃げ込みのコース。

水温は26°に上り南西8～10Mの追手にスピネーカーを一ぱいにふくらせて疾走又疾走。大島の北端をかすめて夕宵迫る頃城ケ島に達した。

後続艇は影すら見えずゴール迄後一息。だんだん弱くなつて行く風に気があせるばかり。逗子湾を目の前に見乍ら秋谷沖でベタ凪に会う。約1時間半漂流の後吹き始めた，北々東の微風を捉え23時50分にゴール。

1着であることを確認すると何ともいえない満足感と共に，張り詰めた気が抜けてゆくのが感ぜられた。

これで漸く数年来の宿望を達したわけだが，惟うに今回の成功は永年苦心研究した伊豆沿岸の潮流と風を基として，樹てた作戦に忠実に従つたために外ならない。これで待望の高松宮カップが戴けるのだ。

航路の記録は次の通りである。

7月31日

21.00　スタート　SW 4m/s　トップに出たが行足なく直ぐミツチヤン早風に抜かれる。

21.30　SW　6～8m/s

23.00　第二海堡 SW　6m/s

23.15　米船とクロス避ける。約10分損をする。

23.35　第三海堡 SW　6m/s　早風に先行する。

8月1日

0.15　観音崎灯台 S5m/s　トップに立つ。

1.00　浦賀沖　水温 22.5°C〃式根〃に会う。

第４回全日本実業団ヨット選手権大会実施要項

1．日　　時：昭和33年11月２～３日
2　場　　所：神奈川県葉山鐙摺ハーバー
3．参加資格：全日本実業団ヨット連盟ノ加盟団体ニシテ地方連盟（連盟ナキ場合ハ協会）ノ推薦セルモノ
4．種　　目：スナイプ，テインギー各１艇ヲ１チームトスル。艇ハ何レモ２人乗トス。
5．レ　ー　ス：各クラス共５回戦，乗廻シ方式ニヨル
6．得点方法：n－a＋4　方式ヲ用イ，綜合得点ニヨリ優勝ヲキメル（但シトップ艇ニハ¼点ノボーナスヲツケル）
　　n＝出走艇数　　a＝順位
7．参加申込：参加料１団体 3,000円
　　申込期限　9月30日
8．賞　　：高松宮杯・連盟会長杯・産経賞・神奈川県知事杯（予定）
9．艇　　：使用艇ハ主催者側ニテ準備スルモ，参加団体ハスナイプ，テインギーノセール各１枚を持参ノコト（但シ綿生地ニ限ル）（艇ハ抽籤ニヨリ順次乗廻シトスルモ，１回戦ニハ自セールヲ使用スルモノトス）
10．備　　品：シート・ブロック・シャックル類モ各自持参ノコト
11．主将会議並ニ懇親会：11月１日午後７時ヨリ逗子市桜山観瀾荘
12．宿　　舎：ハーバー附近旅館１泊800円見当ノ見込

3.00　剣　崎　SW 8 m/s
4.00　城ケ島　SW 8 m/s
6.00　SW 10 m/s　リーフする。
8.00　真鶴沖　SW 5 m/s　フルセール（ジエノアジブ）レッド・ウイングをポートで抜く。
8.30　無風。
10.00　初島東４浬，初島寄りにヨット４隻現る。メーンシユラウドのピンが抜けセイルを下して修理中〃式根〃に会う。
15.00　S微風吹出す。水温 19°C
15.30　SW 8 m/s　レギユラージブにかえる。
15.35　SW 10m/s　リーフする。
16.00　初島南５浬。
17.00　再び無風。伊東近くに１隻他は皆沖に出る。
18.00　夕凪は続くが水温 18°Cの南流に乗る。
20.00　WSW 3 m/s
20.30　WSW 10m/s　リーフする。
22.30　熱川沖　WSW 12～15m/s
23.30　稲取沖

8月２日

0.30　今井浜〃式根〃に会い発火信号で応答，近くに１隻ヨットを認む。
2.30　爪木崎　S２～３m/s 水温 18°C
2.50　水温 23°C 風弱く，潮流強くフルセールにするも進まず，ショートタックを繰返し下田に向う。
4.30　下田沖　S４m/s 水温24°C湾内に 18°C冷水域あり。
5.00～8.00　無風。岸寄りに漂流，この間〃黒潮〃に一旦上を抜かれたが，〃黒潮〃は潮に流され再び遅れる。小雨
10.00　湊。ここまで暗礁を縫いショートタック。なおショートタツクをつずけ下流沖に達す。
10.30　下流沖。WSW 4 m/s 進路Sアビームこの頃〃黒潮〃ははるかに遅れる。ここで渡り始めたが潮目の前でなお一回タックして慎重を期す。（下流シタル）
12.00　神子元島廻航。SW 3 m/s　物凄い潮でギリギリで廻航し，スピネーカーをあげる。
12.30　SW 8 m/s 水温 26°C追潮強し。
13.00　〃玄海〃にあう。
15.00　大島元町沖
15.35　乳ケ崎。SW10m/s 快走又快走。
19.00　剣崎南10浬 SW 3 m/s ここより北々西に転進，ジエノアをはる。
19.30　城ケ島　SW 4 m/s 北流あり。
20.40　秋谷沖。無風。
22.10　NNE 微風。
22.30　NNE 3 m/s　名島をかわして一路ゴールえ
22.50　ゴールインする。

乗員は艇長竹下政彦，福吉信雄，高村孝，小栗満俊川島正道，鳥養鶴雄であつた。

猶このレースには，潮風，グレース，ムヤ，早風，黒潮，レツド・ウイング，ミッチヤン，以上Aクラスアルバトロス，ジヨビアルフアイブ，ドンガメ五世，相模，フライングフイツシ以上Bクラス。南映（ナンバエ）Cクラスの参加があつたが，ゴールしたのは潮風とグレースの二艇で記録は下の通りであつた。

艇名	艇長	走航時間	訂正時間
潮　風	竹下	49時50	31時53.6
グレース	内田	62時39	40時24.6

（2頁より）

策を講ずる必要があるとの意見が多く，中にはインター・カツヂレースそのものの行い方を改めなければならないとの意見も出たが，これは此の問題だけで他日理事会を持つこととし，取りあえず，学連に此の問題取りわけ日大の件の処置をまかせた。

4. インタークラブ・レースの件

秋田理事より，上記の件の説明があつた。猶今年の帆走委員長を伊藤関西ヨット協会長とし，委員に小沢上田，南その他を依頼したい旨申出あり諒承した。

第13回　8月20日　於体協協議会議室

出席者　小沢理事長，山本，岩田，小林，和田，堀江各理事，千野オリンピック委員

イ．オリンピックハーバーの件

小沢理事長より前理事会後の動きにつき報告があつた。要旨次の通り。

富岡候補地は魚業権買収に巨額の費用がいるの他，地元漁師が反対なので横浜市も困つていた所三渓園の対岸で富岡の北に当る所に飛行艇（旧海軍の施設）引揚場があり，目下進駐軍が接収しているが，ヨットハーバーには好適地で後二年で接収が解除される予定であるから，オリンピックには間に合うが此所はどうかとの話が急に起つた。これにつき，横浜市田中助役，港湾局長，体育課長等と小沢理事長，千野委員とが視察に行つた。然して，同所の地図を千野委員が貰つて来たのでこれにつき研究し，結果再び山田委員に設計を依頼することとした。

ロ，国際委員会報告の件

岩田委員長より別項の如く8月13日の同委員会の報告があり了承した。

ハ，ヨット協会報の件

堀江委員長から第2号発刊の件報告があつた。

ニ，日大の件

和田理事より進行情況の説明があり，日大は当事者4名の進退伺いと謝罪状を出したとの事

ホ，スターに関する件

香港遠征チームが流失した，淡青セーリング所有のスターの代換艇として，関西ヨット協会から購入したスターは修理を終え8月19日同クラブに返却した旨報告があつた。

ヘ，国体の件

本年度は役員旅費滞在費が滋賀県から出ないので各役員は自弁で来て貰い度き旨，地方協会に連絡すること。猶小沢理事長は8月30日国体最終打合せのため大津に行くこととなつた。

ト，遠征選手に関する件

国際委員会第3回報告の遠征選手を9月末日までに決定し度い旨岩田理事より申出あり次の要領で募集することとした。

1. 遠征期日　11月29日前後の期間2週間
2. 募集人員　7名　各協会の推薦による
3. 費用1名につき15万円（5万円程度協会支出）

重版 ヨット競技と練習 × 図解 ヨットレース戦術集

定価 320円・送料 16円 × 定価 230円・送料 16円

（図書目録呈）
舟艇協会出版部
東京都中央区銀座3の2
電話（56）5400番
振替・東京 25521番

委員会報告

国際委員会　第3回　8月13日（水）体協食堂

出席者　岩田委員長，平田，山口，塩路各委員，小沢理事長，川越理事

議事

1. 本年度国際レースのマニラ，香港遠征につきマニラ・ヨットクラブより，ドラゴン級及110級による11月29，30両日のレースを受けて来たので，直ちにRoyal Hongkong Yacht Clob と，その前又は後の週末にスター級レースを交渉することになつた。

   之に伴う派遣選手は遅くも9月末迄に決定する。

2. ドラゴン級をドイツより購入するに必要な外貨の件，岩田委員長が通産，大蔵，文部各省当局者と予備交渉の結果，体協より承認申請書が出れば許可される見通しがついたので直ちに必要な手続をとることになつた。

3. I. Y. R. U. よりドラゴンのルールが到着，研究に着手。

4. I. Y. R. U. の本年度総会（11月）に出席要請があつたが，現在誰が出席出来るか不明であるので取敢えず地区代表のポールトガルに委任状を出して置くことにする。

後記　次号は国体号とする心算りである。それには記録の量から云つても増ページもなければならないだろう。手が不足なので広告を頼みに行くのも容易ではない。地方協会でも広告を取つていただき度い裏表紙は一頁10,000円，中一頁6,000円，半頁3,000円位にお願いし度い。広告と云うより寄付と云つた気持でお願いする次第である。相変らず期日に間に合せるために金子君に走りまわつて貰つている。表紙は松島インカレのシーン（和田君写す）である。

日本ヨット協会報第三号
昭和卅三年九月七日発行　毎月七日発行
編集者兼発行人　東京都新宿区柏木三ノ三九七　小沢吉太郎
印刷所　東京都台東区坂本町二ノ二六　光芸社美術写真製版印刷所
（非売品）